

平成16年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1232
事業コード		事務事業名	住宅用太陽光発電システム設置費補助事業	
根拠法令等	蒲郡市太陽光発電システム設置費補助金交付要綱	A法令	B条例	C規則
			Dその他	Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
人と自然が共生する潤いあるまちづくり	環境保全

②事務事業の内容

対象(受益者)	自ら居住する市内の住宅に住宅用太陽光発電システムを設置した者に対して
手段	設置費補助金(平成16年度は8万円×kW、4kW上限)を支出することにより
想定する成果	市民の自然エネルギー利用を支援し、地球温暖化対策が推進される。

③事業の概要

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
件数	37件	43件	40件
出力総計(kW)	131.01kW	139.43kW	133.40kW
補助金額	12,426,000円	10,710,000円	8,000,000円

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標の説明	累積設置件数	累積出力(kW)
	市補助金を受けて太陽光発電システム設置した累積件数	補助による太陽光発電システム稼動累積出力

⑤事業の進捗状況

(一般会計)

(千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標①	計画	—	—	149件
	実績	66件	109件	—
成果指標②	計画	—	—	511.69kW
	実績	238.86kW	378.29kW	—
事業費	事業費	12,426	10,710	8,000
	人件費	473	462	471
	(人数)	0.2	0.2	0.2
	合計	12,899	11,172	8,471
財源内訳	国			
	県	2,588	1,491	750
	市債			
	その他			
	一般財源	10,311	9,681	7,721

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	3	概ね設置希望者の要望を満たしている。
経済効率性	2	2	補助額を減らしてきているが、設置件数はほぼ一定で推移し、効果を上げている。
事務効率性	3	3	NEFによる書類審査と中電による技術的検査を経ているため、市の手続きは簡便である。
必要性	3	3	地球温暖化対策を推進する柱として必要性は大きい。
小計	11 /12 満点中	11 /12 満点中	
市民参加度	2	1	設置費用は高額のため、導入できるのは生活にゆとりがあって意識の高い人に片寄る傾向がある。
合計	13 /15 満点中	12 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	A	A	新エネルギービジョンで定める目標を達成するため、設置者の経済的負担を軽減して導入を促進する施策は必須である。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

裏負担の県費補助額が削減の中、補助単価を毎年度削減をして補助総額を押えると共に、設置件数を減少を押えている。

⑧今後改善すべき点

NEF及び県費補助が削減される方向にあり、財政事情の厳しい中予算確保と設置を決断する先駆的な市民に魅力ある補助制度として、広く普及を図りながら進める必要がある。

⑨平成18年度予算に反映する項目

k W当たりの補助額を維持することにより、積極的に導入の促進を図る。

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成16年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1232
事業コード		事務事業名	環境啓発事業	
根拠法令等	環境基本法、地球温暖化対策に関する法律	A法令	B条例	C規則
		Dその他	Eなし	

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
人と自然が共生する潤いあるまちづくり	環境保全

②事務事業の内容

対象(受益者)	子供を含む市民、事業者に対して
手段	出前講座や自然観察会、広報掲載等で環境にやさしい生活、活動を促す学習機会を提供することにより
想定する成果	環境意識の高揚を図り、実践してもらう。

③事業の概要

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
事業実施回数	16回	18回	16回
参加数	878人	232人	232人
主な講座等	里山観察会など	冬鳥観察会など	里山観察会など

④成果指標

成果指標名	①	②
	参加人数	講座参加率
成果指標の説明	参加人数	参加数/募集数×100

⑤事業の進捗状況 (一般会計) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標①	計画	—	—	232人
	実績	878人	232人	—
成果指標②	計画	—	—	—
	実績	97.4%	86.2%	—
事業費	事業費	78	87	25
	人件費	1,623	1,607	1,656
	(人数)	0.2	0.2	0.2
	合計	1,701	1,694	1,681
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	1,701	1,694	1,681

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	参加者の動員増加ももちろん必要であるが、どれくらい理解し、環境に対する配慮を実践しているかの検証もする必要がある。
経済効率性	3	2	人件費が主で、事業経費は少なく済む。
事務効率性	3	2	広報紙掲載回数は多いが、講座は募集から準備まで手間が掛かるため実施回数は限られる。
必要性	3	2	多くの市民に環境に対する意識啓発を行なう上で重要である。
小計	11 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	講座の受講者は、限られた興味のある人参加が多い。環境意識の薄い人の取り込みが難しい。
合計	13 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	A	B	反復実施が、効果を上げる要因でありそう。多くの魅力ある講座、新鮮な情報などの記事により意識啓発を図って行きたい。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

平成15年度から、里山観察会及びスナメリ観察会に併せて環境講演会を開催している。

⑧今後改善すべき点

参加者の能動的な活動が行なわれているかどうか、アンケートなどで検証を行う必要がある。また、予算が許す範囲でインパクトがあり、動員数の多い講演を開くと良いのではないか。小中学校における総合学習で、児童生徒に訴える機会を増やす。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

講師、指導者の育成や増員、若返りが必要である。

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成16年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1235
----	-------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	斎場動物等焼却事業		
根拠法令等	蒲安市斎場の設置及び管理に関する条例	A法令	<u>B条例</u>	C規則	Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け 基本目標

基本目標	人と自然が共生する潤いあるまちづくり	施策名	環境衛生
------	--------------------	-----	------

②事務事業の内容

対象(受益者)	ペットの飼い主及び市民全体に対し
手段	斎場で焼却処理することによって
想定する成果	街の美化衛生が保たれる。

③事業の概要

() 内は幸田町及び市外分再掲

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
犬火葬件数	611 (174)	608 (153)	————
猫火葬件数	1432 (273)	1523 (309)	————
産汚物等火葬件数	104 (5)	67 (2)	————

④成果指標

①

②

成果指標名	斎場経費に対する動物焼却収入の割合	動物等焼却の無料件数(野犬猫等)
成果指標の説明	動物等焼却による収入額/斎場経費	斎場に持ち込まれる動物のうち、無料件数の割合

⑤事業の進捗状況

(一般会計)

(千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	————	————	————
	実績	2.0%	3.1%	————
成果指標 ②	計画	————	————	————
	実績	52.5%	52.8%	————
事業費	事業費	6,012	3,413	4,074
	人件費	1,623	1,607	1,656
	(人数)	0.2	0.2	0.2
	合計	7,635	5,020	5,730
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他	1,559	1,530	1,657
	一般財源	6,076	3,490	4,073

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	3	市民からのペット焼却要望及び死亡した野犬等の焼却要請に十分応えている。
経済効率性	2	2	平成15年度から使用料を値上げしている。
事務効率性	2	2	効率的な焼却に努めている。
必要性	3	3	ペットに対する愛着が深まり、焼却への需要が高い。ペット霊園のように骨が欲しいという市民も増えている。
小計	10 / 12 満点中	10 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	動物愛護思想を維持する重要な施設である。
合計	12 / 15 満点中	12 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	動物愛好家の市民にとっては、必要な施設となっている。人の火葬と同様、丁寧な接遇に努めていきたい。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

平成15年度から犬・猫にかかる斎場使用料を犬 1,000円(1,500円)⇒1,500円(2,300円)に、猫 500円(700円)⇒800円(1,100円)に料金改定したため、約1.5倍の収入増となった。 ※()内は幸田町分。

⑧今後改善すべき点

--

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

斎場の現場での運営は、平成17年度から非常勤職員3人となっており、近隣市町村と比較して、人件費は、最大限安価となっているが、技術の継承等今後が不安である。市民サービスと考えると、業者への委託を検討する時期が来ると考えられる。

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成16年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1235
事業コード		事務事業名	墓地環境整備事業	
根拠法令等	墓地、埋葬等に関する法律	A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
人と自然が共生する潤いあるまちづくり	環境衛生

②事務事業の内容

対象(受益者)	市名義地元管理墓地を利用する市民に
手段	墓地整備費の一部を墓地管理者に市が補助することにより
想定する成果	墓地が適切に管理、運営される。

③事業の概要

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
補助申請件数	1件	2件	—
補助交付額	1,505,000円	1,659,000円	1,215,000円
補助事業費	3,346,500円	3,688,230円	2,700,000円

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	補助金交付申請件数	補助率
成果指標の説明	墓地環境整備のための補助金交付申請件数	補助金額/補助事業費×100

⑤事業の進捗状況

(一般会計)

(千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標①	計画	—	—	1件
	実績	1件	2件	—
成果指標②	計画	—	—	45.0%
	実績	45.0%	45.0%	—
事業費	事業費	1,505	1,659	1,215
	人件費	1,623	1,607	1,656
	(人数)	0.2	0.2	0.2
	合計	3,128	3,266	2,871
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	3,128	3,266	2,871

⑥事務事業内容の評価

項 目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	地元からの施設改善、修繕の要望には応えている。
経済効率性	3	2	地元墓地管理者に補助することにより、安価で効率的に運営できる。
事務効率性	3	2	地元墓地管理者からの申請に基づき適切に処理し、受益者である地元が資金の取りまとめ等をしていただいている。
必要性	3	2	市内地元管理墓98ヶ所の適切な維持のために今後も必要である。
小 計	11 /12 満点中	8 /12 満点中	
市民参加度	2	1	
合 計	13 /15 満点中	9 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	A	B	市直営墓地が現在無い中で、市内の市名義地元管理墓地が果たす役割は大きく、受益者の意向も加味され環境整備が行なわれており、今後とも、申請に応じて補助金を支出する必要がある。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

平成13年度から、他の補助金と同様、補助対象事業費の50%から45%に低減した。

⑧今後改善すべき点

墓地埋葬法上、まず第一に市町村直営の墓地が求められている。今後も、市直営の墓地建設は財政上検討できないので、地元管理墓地の維持のために、補助金制度を継続する必要がある。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成16年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1235
事業コード		事務事業名	環境美化事業	
根拠法令等	空き缶等ごみ散乱防止条例	A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
人と自然が共生する潤いあるまちづくり	廃棄物

②事務事業の内容

対象（受益者）	市民及び観光客に
手段	ごみ散乱防止、ごみ減量思想の普及をし、清掃事業等への参加促進、運営などを行なうことによって
想定する成果	街の美化が保持、促進される。

③事業の概要

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
ゴミゼロ運動参加者数(人)	33,675人	29,446人	_____
カーマーケット申込者数	1回 263人	2回 269人	_____
生ごみ処理機等補助金申請件数	75件(107基、352.2千円)	80件(107基、469.6千円)	_____

④成果指標

	①	②
成果指標名	530運動実践活動申請数	生ゴミ処理機の累積補助件数
成果指標の説明	春秋の統一実践活動以外の申請団体件数	生ゴミ処理機の累積補助件数

⑤事業の進捗状況（一般会計）（千円）

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標①	計画	_____	_____	_____
	実績	261団体	361団体	_____
成果指標②	計画	_____	_____	_____
	実績	1,242件	1,322件	_____
事業費	事業費	3,658	4,258	4,510
	人件費	12,176	12,054	12,420
	(人数)	1.5	1.5	1.5
	合計	15,834	16,312	16,930
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他	750	1,117	750

一般財源	15,084	15,195	16,180
------	--------	--------	--------

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	ごみ散乱防止、ごみ減量など課題山積みであるが、市民との協働による方向性が見えてきている。
経済効率性	2	2	
事務効率性	2	2	
必要性	3	3	ごみ散乱防止、ごみ減量は緊急の課題である。地球温暖化防止対策にも必要である。
小計	9 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	530運動も浜町地区、形原地区が市民の申し出で増えるなど、市民のごみ問題への関心が形になって出てきている。また、市民に人気のあるフリーマーケットなどのイベントによって、市民に啓発をしている。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	ごみ散乱防止、ごみ減量を通しての環境美化は、市民生活に直結する最重要課題である。万博、観光立市宣言など市民の関心が高まっている時期に、試行錯誤しながら市民との協働を検討していきたい。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

<p>平成16年度から、ごみ散乱防止重点地区の見直しを行い、ごみ散乱が目立つ山間部及び海岸線の路線の8箇所を重点地区とした。 重点地区清掃委託料 15年度 1,369,533円 ⇒ 16年度 1,107,086円 クリーンキャンペーンも従来の地区から、浜町地区、北浜・春日浦地区(形原町)など、散乱地区を統一実践場所に加えた。 クリーンサポーターの見直しを行い、実質的に日常活動される方に精選した。</p>
--

⑧今後改善すべき点

<p>市民の協力なくしては、街の美化、ごみ減量は進展しない。エコバッグの普及方策の検討、ごみ散乱防止宣言事業所の募集、有料ごみ袋制度の検討、クリーンサポーターの意義ある活用方法の検討、530運動の弾力的な改善など、空き缶等ごみ散乱防止条例を生かした施策を縦横に展開していく。</p>

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成16年度事務事業評価表

担当	産業環境部	環境課	内線等	1,235
----	-------	-----	-----	-------

事業コード		事務事業名	清幸園衛生処理場維持管理負担事業		
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	A(法令)	B 条例	C 規則	D その他 E なし

①総合計画での位置付け 基本目標

	施策名
人と自然が共生する潤いあるまちづくり	廃棄物

②事務事業の内容

対象（受益者）	蒲郡市及び幸田町の住民に
手 段	浄化槽汚泥及び生し尿を処理する「清幸園」を運営し、蒲郡市分の負担をすることにより
想定する成果	周辺の衛生及び河川、海域の水質浄化がもたらされる

③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
蒲郡市負担金 (千円)	136,046	123,168	158,679 (予算)
搬入量(キログラム) 蒲郡市分	17,079	17,104	—————
市内の清幸園関係 世帯数（全世帯に 対する割合）	12,679世帯（51.7%）	12,642世帯（50.5%）	12,533世帯（49.1%）

④成果指標

成果指標名	① 施設運営分需用費 (修繕除く) 単位千円	② 修繕料の推移 単位千円	③ 蒲郡市の負担金割合 %
成果指標の説明	運転管理の見直しで電気料などの光熱水費、燃料費、消耗品を減らす。	次期改修計画があるため、設備に支障がない範囲で修繕を抑えるように努めている。	蒲郡市負担分/ 蒲郡市負担分 + 幸田町負担分

⑤事業の進捗状況

		(一般会計) (千円)		
		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—————	—————	—————
	実績	48,104	45,594	—————
成果指標 ②	計画	—————	—————	—————
	実績	40,762	29,530	—————
成果指標 ③	計画	—————	—————	57.1%
	実績	51.9%	53.3%	—————
事業費	事業費	158,056	153,167	158,679
	人件費	16,234	16,072	16,560
	(人数)	2	2	2
	合計	174,290	169,239	175,239
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	174,290	169,239	175,239

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	2	日常のし尿処理業務を継続しながら、次期更新時の改修施設の計画を検討している。
経済効率性	2	2	経費節減を図るため、運転管理の見直しなどを実施しているが、下水道進展の遅さによって、幸田町との負担割合は蒲郡が高くなっている。
事務効率性	2	2	
必要性	3	3	し尿処理業務は、環境衛生上欠かせない業務であり、三河湾の水質浄化にも貢献している。
小計	10 /12 満点中	9 /12 満点中	
市民参加度	1	0	
合計	11 /15 満点中	9 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	幸田町に比較して下水道の進展が遅いため、負担率が増加している。適切な処理、及び効率的経費運用のため、不断に業務の見直しを実施している。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

場内の樹木を低木化し、従来、庭園業者をお願いしていた剪定を職員及び委託職員が実施して経費の節減を図った。
従来9人であった委託職員を8人とし、シルバー人材センターに受け付け業務を依頼し経費節減を図った。
脱臭用の活性炭の交換時期を、脱臭効果の検査をしながら従来よりも延長した。
従来、市の単価に準拠していた重油の価格について、独自に競争見積もり徴取し価格の低減に努めた。

⑧今後改善すべき点

施設改修を通じて、汚水を下水に接続し、施設を簡素化して経費の節減を図る。また、汚泥焼却についても、クリーンセンターでの焼却を目指す。

⑨平成18年度予算に反映する項目

次期施設改修のために基本設計委託料を計上する。

⑩組織、人員に関する提言

平成20年度工事を目標とする次期施設改修時には、下水道接続を念頭に委託人数の大幅な低減に努める。

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載